

13 乳酸菌酵母共棲培養エキスの 血清脂質に対する効果の検討

○村田幸治¹ 鳥海善貴² 亀井勉² 鈴木信孝³

山口清次¹

1.島根医科大学小児科 2.島根難病研究所

3.金沢大学産婦人科

【目的】抗コレステロール作用を有する薬剤として、植物ステロールや γ -オリザノール、HMG-CoA還元酵素阻害薬などが知られている。HMG-CoA還元酵素阻害薬は当初 *penicillium citrium* (PC) から分離され、後にコレステロール合成阻害作用をもつことが見出された。乳酸菌酵母共棲培養エキスは、乳酸菌 16 種類と酵母菌 24 種類を共棲培養したものであり、PC は含まれていないが、ウサギでの検討で血清コレステロール値の改善効果が示されている。しかし、ヒトでの血清脂質に対する効果についての報告はない。今回我々は、同培養エキスのヒトに対する効果を、動脈硬化症発症のリスク要因である血清中の中性脂肪、コレステロールについて検討した。

【方法】乳酸菌酵母共棲培養エキス(ラシュレ 40、株式会社アルガ製) 50ml/日を、過去に摂取歴がなく生活習慣病などの基礎疾患がない(1例には軽度の脂肪肝あり)、24歳~50歳の男性5名に3週間投与した。この5例について、投与前後の総コレステロール(T-Cho)、HDLコレステロール(HDL-C)、LDLコレステロール(LDL-C)、LDL分画、中性脂肪(TG)、動脈硬化指数(AI)を指標として、解析を行った。

【結果】T-Cho、HDL-C、LDL-C、TGの各々の検討では有意な変化を認めなかった。AIでは、TGが投与前に100mg/dl以下の1例でAI上昇(AI:5.3→6.6)を認め、投与前に100mg/dl以上の4例でAI低下の傾向を認めた(AI:7.6±5.4→5.8±3.5、 $p<0.10$)。AI低下例では、投与前のTGが200mg/dl付近で、AI変化率が0.7と最も大きかった。LDL分画は、TGの低下が著明であった1例(TG:649mg/dl→372mg/dl)で分画像が1、4、5→1、2、4、5へと、粒子サイズの大きな分画(LDL1、LDL2)が出現する、より正常に近いパターンに変化していた。

【結論】乳酸菌酵母共棲培養エキスは、3週間の摂取により、TG高値の場合にAIの改善を示し、その際にLDL分画像の改善を認めた例もあったことから、動脈硬化症の発症予防に有用である可能性が考えられた。